

平成23年9月5日
国土交通省鉄道局

「第3回 津波発生時における鉄道旅客の安全確保に関する協議会」 の結果について

標記会議を下記のとおり開催しましたので、その概要をお知らせします。

記

1. 日 時 平成23年9月5日（月）13:30～15:30

2. 場 所 国土交通省合同庁舎3号館 11階特別会議室

3. 出席者 別紙1のとおり

4. 議 題

- (1) 東日本大震災の津波発生時における旅客の避難状況の検証について
- (2) 東日本大震災での対応状況を踏まえた教訓の整理
- (3) その他

5. 会議の概要

- (1) 国土交通省より、東日本大震災の津波発生時における旅客の避難状況の調査結果について報告した。主な報告内容は以下のとおり。
 - ① 東日本大震災に伴う津波発生時には、乗客、地域住民の協力の下、マニュアル等に沿って又は乗務員自らの判断によって、旅客を避難場所に誘導することができた。
 - ② 指令・駅の津波(大津波)警報の知得方法は、「テレビの速報」が多い。
 - ③ 乗務員の津波(大津波)警報の知得方法は、「列車無線」がほとんどであったが、一部区間において無線が途絶したため、携帯電話のワンセグ等を活用した事例があった。
- (2) 東日本大震災での対応状況を踏まえた教訓について意見交換した。
(津波発生時における鉄道旅客の安全確保の例：別紙2のとおり)
- (3) 鉄道旅客の安全確保のための課題と対応策について、とりまとめることとした。これまでに明らかになった主な課題は、以下のとおり。
 - ① 通信手段（列車無線）が途絶した場合の対策。
 - ② 浸水の可能性のある区間で列車が停止した場合の迅速な避難方策。
 - ③ 駅間停止列車から避難する場合の迅速な降車方策。
 - ④ 夜間における避難方策。

【連絡先】

国土交通省鉄道局安全監理官室

担当 中野・笠原 03-5253-8111(内40772)

03-5253-8548(直通)

第3回 津波発生時における鉄道旅客の安全確保に関する協議会 出席者名簿

1. 鉄道事業者

北海道旅客鉄道株式会社 安全推進部 副課長	武藤 功一
東日本旅客鉄道株式会社 執行役員 安全企画部長	西野 史尚
東海旅客鉄道株式会社 安全対策部 次長	清水 厚真
西日本旅客鉄道株式会社 常務執行役員 安全推進部長 安全推進部 安全調査課長	宇都宮 道夫 大崎 求
四国旅客鉄道株式会社 安全推進室長	川上 益央
九州旅客鉄道株式会社 取締役 安全推進部長 安全推進部 担当課長	古賀 徹志 大羽 健司
京浜急行電鉄株式会社 安全対策担当部長 安全対策担当課長補佐	轡田 吉夫 笠野 大
近畿日本鉄道株式会社 企画統括部 運転保安部長	松田 健

2. 研究機関

独立行政法人 交通安全環境研究所 交通システム研究領域長	廣瀬 道雄
---------------------------------	-------

3. 国土交通省 鉄道局

技術審議官	米澤 朗
鉄道業務政策課長	竹田 浩三
技術企画課長	北村 不二夫
施設課長	潮崎 俊也
安全監理官	中桐 宏樹
首席鉄道安全監査官	押立 貴志
企画調整官	高橋 信夫
事故対策官(総括)	中野 智行
鉄道安全監査官	笠原 由之

東日本大震災での対応状況を踏まえた教訓
(津波発生時における鉄道旅客の安全確保の事例)

1. 乗務員は自ら危険と判断し、指令に避難許可を貰い、避難した事例
2. 地震の揺れが大きかったので津波発生が想定でき、迅速に避難ができた事例
3. 「津波警報を知得した場合は、空振りでも避難する」という方針を徹底していたので、直ぐに避難行動ができた事例
4. クイックラダー（折りたたみ梯子）を用いた降車訓練行っていたため、降車時間の短縮ができた事例
5. 乗客を所定の降車箇所でない扉からも降車させ、降車時間の短縮ができた事例
6. 先頭車両に乗客を集めて、避難指示後直ぐに避難できるように待機し、避難時間を短縮できた事例
7. 駅では役割分担（避難誘導、戸締まり等）を決めていたので、避難時間を短縮できた事例
8. 案内放送の案文をあらかじめ作成していたため、旅客に対し、落ち着いて案内できた事例
9. 避難場所が判らなかったが、乗客や地元の方の意見を参考に避難場所を決めることができた事例
10. 避難場所まで実際に歩く訓練を行っていたので、迅速に誘導できた事例
11. 自治体等が設置した避難場所への誘導看板が、避難する際に有効であった事例